
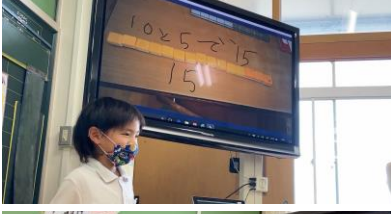
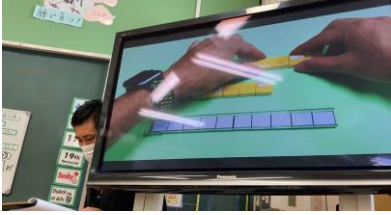
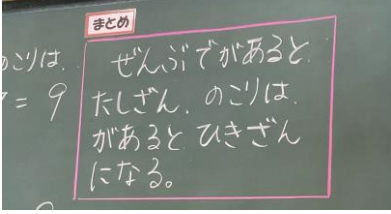



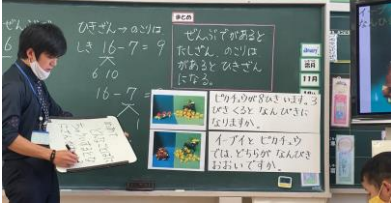


| 予習        | ○ 予習をしたノートを忘れないように指導する必要がある。  |   |   |
|-----------|---|---|---|
|           | 主な学習活動と検証事項   | 学習活動の様子   | 課題  |
| 展開<br>20分 | <p>1 自分の考えを発表する様子を友達とロイロノートを使って撮影し合い、説明の練習をする。</p> <p>2 自分の考えを説明する。<br/>学び合いの想定シートを基に「とも学び」をつないでいく。</p>   |     | <p>○ 自己の考えを説明する練習の時間を少なくし、児童同士の「とも学び」にすぐに移ることができるようにする必要がある。</p> <p>○ 児童の思考の比較・検討が少しだが行われた。今後は、異なる考え児童のノートを画面に映し、検討を深めさせる必要がある。</p> <p>○ 「とも学び」の秘訣は、友達と友達が「似ていて」「同じで」「しかも」「だって」「付けたし」などの言葉でつながることである。今後も継続させる必要がある。</p>   |
| 終末<br>10分 | <p>3 文章題のどこに着目したかをまとめる。</p> <p>【手立て①】計算の仕方を、動画を活用して確かめる。</p> <p>【まとめ】「ぜんぶで」があるからたしざん、「のこりは」があるからひきざんになった。</p>   |    | <p>○ 自分の言葉でまとめる子どもの姿を具現化していくために、(1) 誰の、どのような考えに着目したか。(2) その考えは、これまでのやり方と比べて、どのような違いがあるのか、また、その違いがどのように有効に作用したのかについて着目させる必要がある。</p> <p>○ 複数の考えを示した動画での事象提示は児童の言葉でまとめさせるための手立てとして有効。今後も継続させる必要がある。</p>  |
| 習熟<br>10分 | <p>4 「算数の力」の問題に取り組む。<br/>デジタルドリルを活用した習熟に取り組む(2年生)。</p>  |    | <p>○ 2年生がデジタルドリルを活用していたように、ナビマ等のデジタルドリルを導入したい。</p> <p>○ 結果の履歴や誤答の傾向がわかるとよい。個人のデータとして保存する必要がある。</p> <p>○ 2年生のかけ算アプリは、本人たちも楽しそうに取り組んでいた。一方で、ずっと同じことの繰り返しなので飽きているように感じられたため、複数の問題を準備しておくとういと感じた。</p>   |
| 導入<br>5分  | <p>5 次時の課題をつかむ。</p> <p>【手立て③】学習への動機付けを図るために、スライドを活用して問題を提示する。</p> <p>6 次時のめあてを立てる。</p> <p>【手立て④】これまでの足し算や引き算の文章題を想起させ、何に着目したかを確認する。</p> <p>【手立て④】これまでのノートを振り返らせる。</p> |    | <p>○ キャラクターや登録商標等の取扱いに留意して教材作成を行いたい。</p> <p>○ 学校生活や日常の生活の体験に基づく課題設定ができるとよい。</p> <p>○ 動画の音量は適切。数人で聞こえる程度にする必要がある。</p> <p>○ 自分なりのめあてを立てさせる方法を指導する必要がある。</p> <p>○ 低学年は、めあての文例をいくつか作っておき、どのパターンで作ればよいか示す必要がある。教師が提示しためあてと違って間違いとせず、めあてを立てられたことを認め、めあて作りへの意欲を維持する必要がある。</p> <p>○ ノートを振り返る際は、インデックス等が付いていると振り返り易い。アナログだが、「検索」の要素は大事である。</p> |
| その他       | <p>○ 動画やスライドの内容は簡潔にし、教師が児童の反応を見ながら補足、説明していくようにする必要がある。</p> <p>○ 他の過程で時間を縮めることで、ノートに課題を書く活動を取り入れる必要がある。</p> <p>○ 低学年では、自分なりのめあてを立てるのは、少し難しいようにも感じた。</p>                |   |   |